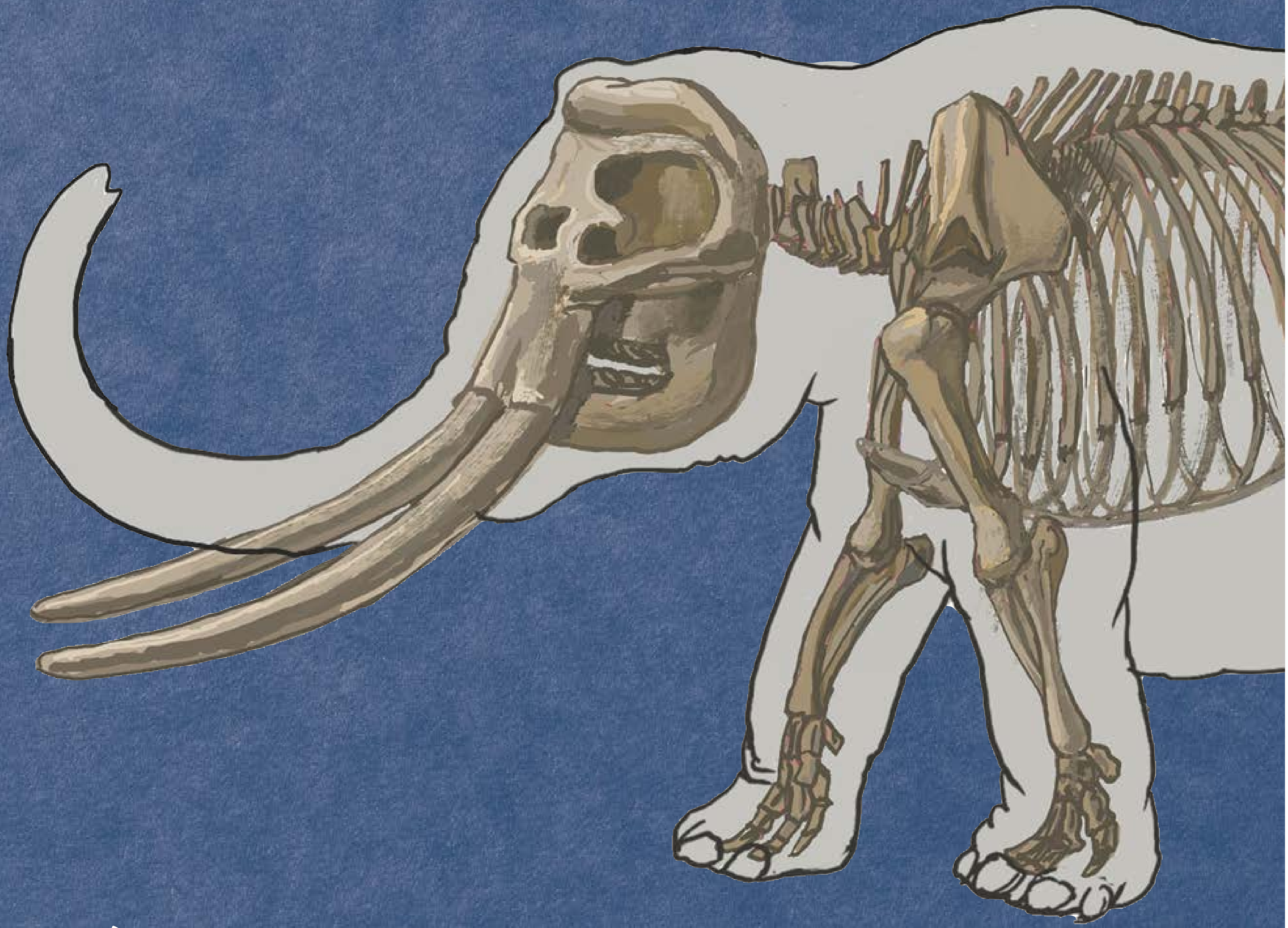
CHIYODA CITY NEWS
広報
千代田
Vol.1667
令和8年(2026年)
7月/5日



今よみがえる古(いにしえ)の生きものたち

発見された東京の化石が物語る歴史

Contents ―今号の主な内容―

5 事業者向けの手続きがポータルサイトで可能になりました 5 飯田橋こどもの広場にスケートボード施設を開設 7 夏の遊び場に出かけよう!

発行=千代田区 編集=広報広聴課 〒102-8688九段南1-2-1☎03-3264-2111(代表) FAX03-3239-8604 区HP:https://www.city.chiyoda.lg.jp

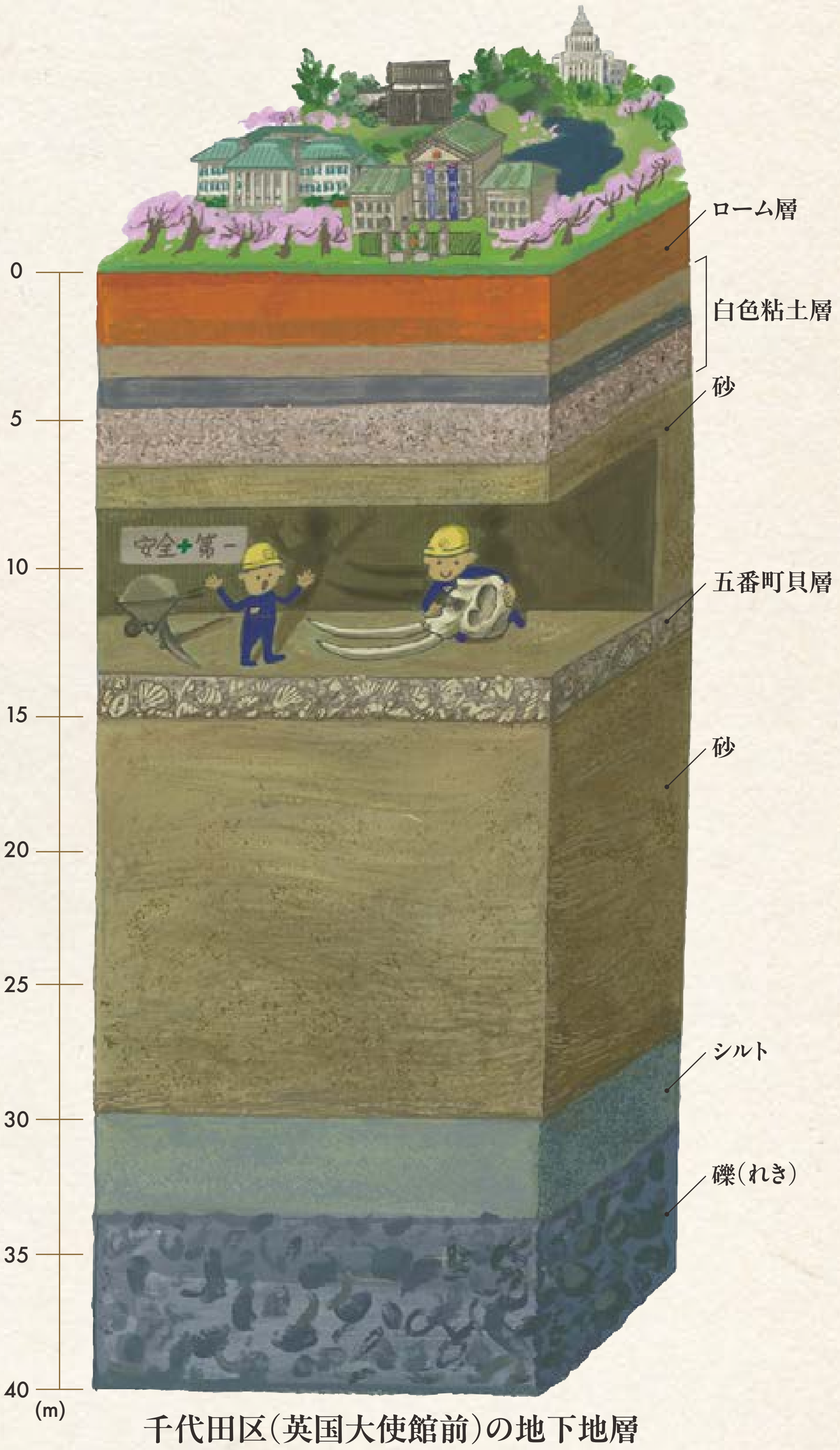
今よみがえる古の生きものたち

―― 発見された東京の化石が物語る歴史 ――

都内の高層ビル建設や地下鉄工事で、さまざまな生きものの化石が発見されています。何万年もの間、地中深くに眠っていた化石。これら古の生きものたちが伝える、地層の変遷や気候変動の歴史は、現代の千代田区の成り立ちを知る手がかりとなります。

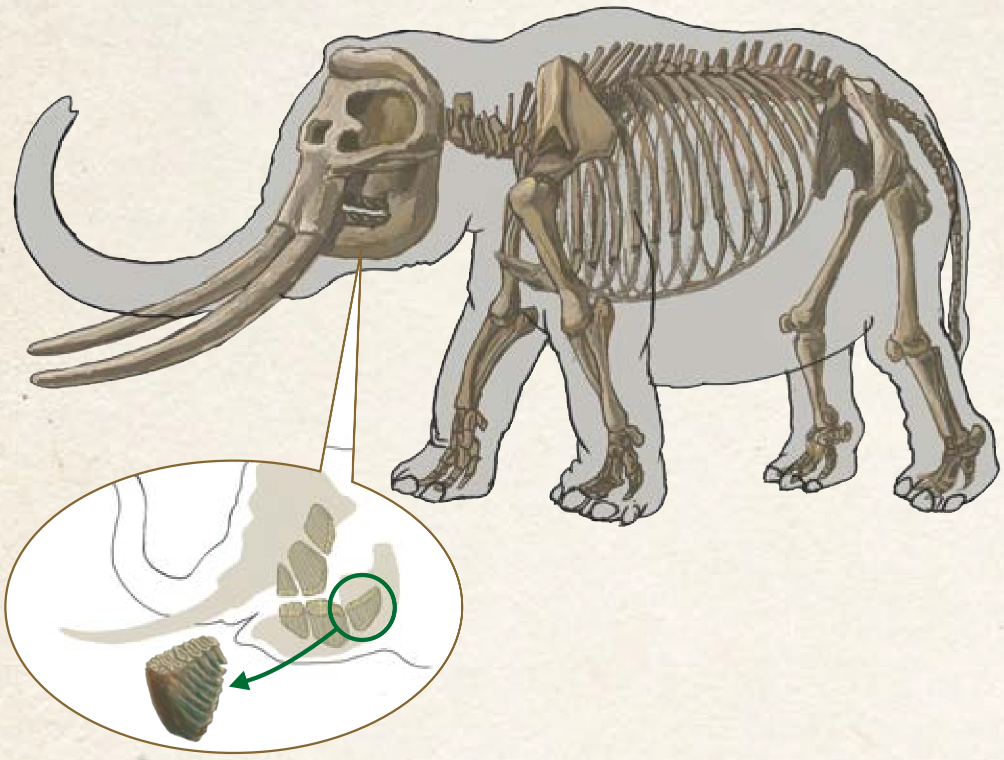
都心部から発見される化石

化石というと、自然豊かな川辺や崖、砂漠など、古い時代の地層がむき出しになっている場所から見つかるといったイメージを持つ方が多いのではないでしょうか。しかし、実は高層ビルがひしめく東京の都心部からも地下鉄や道路、ビル建設などの開発工事により、絶滅した大型動物や貝の化石が数多く見つかっています。都心部では開発が多く、またその工事では地下深くまで掘削することから、化石が見つかりやすい傾向があります。



千代田区（英国大使館前）の地下地層

『千代田区史』（千代田区、1960）を基に作成



⑤ 英国大使館前発見

国立科学博物館所蔵

ナウマンゾウ（臼歯）

千代田区にナウマンゾウ

昭和38（1963）年3月3日、半蔵門・英国大使館前で施工していた首都高速道路4号線の工事現場で、区で初めてナウマンゾウの化石が発見されました。この工事では千鳥ヶ淵公園の範囲を開削施工しており、施工規模は長さ約913m、幅約13m（地下構造物部分）、深さ約20m〜10mの範囲です。化石が発見されたのは、地表面からマイナス約12mの深さ。早稲田大学の滝口宏教授の立ち会いのもと化石の取り上げ作業が行われ、化石の下層には自然貝層が確認されたそうです。この貝層は別の場所で確認された、約13万年前に堆積した五番町貝層と同じものだと思われます。この貝層の上に化石があったことから、ナウマンゾウがいたのは五番町貝層、約13万年前より新しいと思われます。岩本町一丁目で発見された切歯は、長さは1.5m、径は10㎝以上とされています。

古の生きものから探る千代田区の変遷

千代田区とその付近から発見されているさまざまな生きものの化石から、古い時代の地域の様子が見えてきます。地図と発見された化石を見比べながら、千代田区の移り変わりを想像してみませんか。

❶ 和田倉門三菱商事ビル地点発見
国立科学博物館所蔵

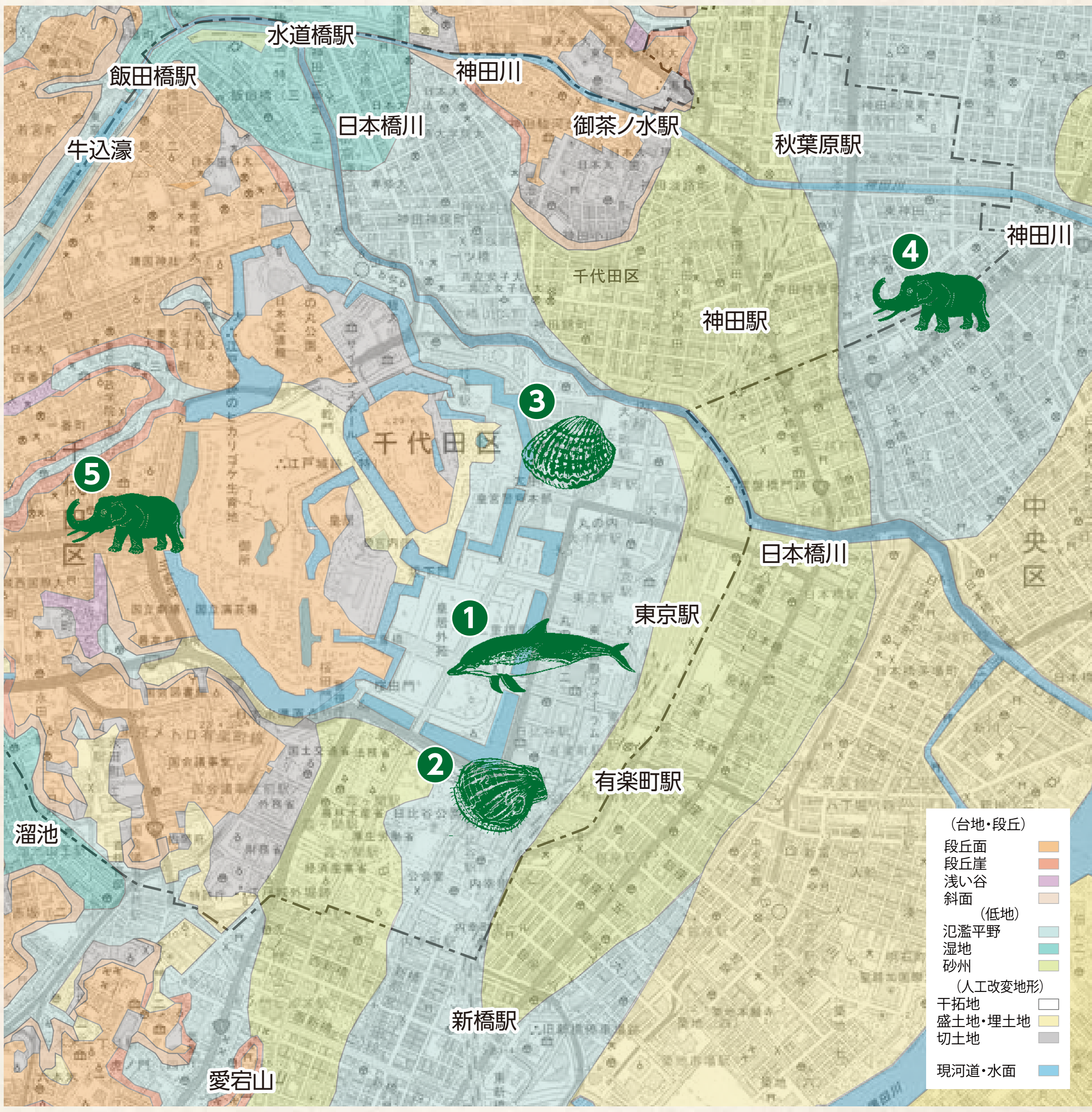
イルカ

世界中の温帯から熱帯の海に生息しています。都心部ではマイルカやスジイルカの化石が見つかっています。他の地域では縄文時代の貝塚からイルカの骨が見つかるため、昔の東京湾でも銛（もり）を使う漁が行われていたと思われます。

❷ 日活国際会館地点発見
早稲田大学考古学資料館所蔵

トウキョウホタテ

ホタテガイに近い仲間で、絶滅種です。初めて見つかったのが北区王子の東京層だったため、この名前が付いています。「東京都の化石」に認定されていますが、北海道南部から九州、済州島、台湾と広く見つかります。



❸ 大手町ビル地点発見
国立科学博物館所蔵

ハイガイ

現在では主に西日本や東南アジアで採れる貝です。満潮時には海に、干潮時には陸になる砂地に棲んでいます。縄文時代の貝塚から多く見つかるので、当時の東京湾でも採れていたことが分かります。

地層まめ知識

「有楽町層」って知っているカイ？

皆さんは、地下深くにある地層の名前にも千代田区内の地名が付いたものがあることをご存じでしょうか。明治41（1908）年、有楽町（現・丸の内3丁目）にあった三菱12号館・13号館の建て替え工事現場において、地下5mの深さから貝化石が見つかりました。貝化石が見つかった地層は、発見場所にちなんで「有楽町層」と名付けられました。この他にも「五番町貝層」、「丸ノ内礫層」といった名前の地層もあります。

❹ 岩本町一丁目発見
国立科学博物館所蔵

ナウマンゾウ（切歯）

ゾウの仲間で絶滅種。大きさはオスで体高2.5m〜3m、体長4.5mほどでした。ナウマンゾウの祖先は、約34万年前、海水面が下がった冷涼な時代に大陸から日本列島に渡ってきたと考えられています。約2万6,000年前まで日本に生息していました。

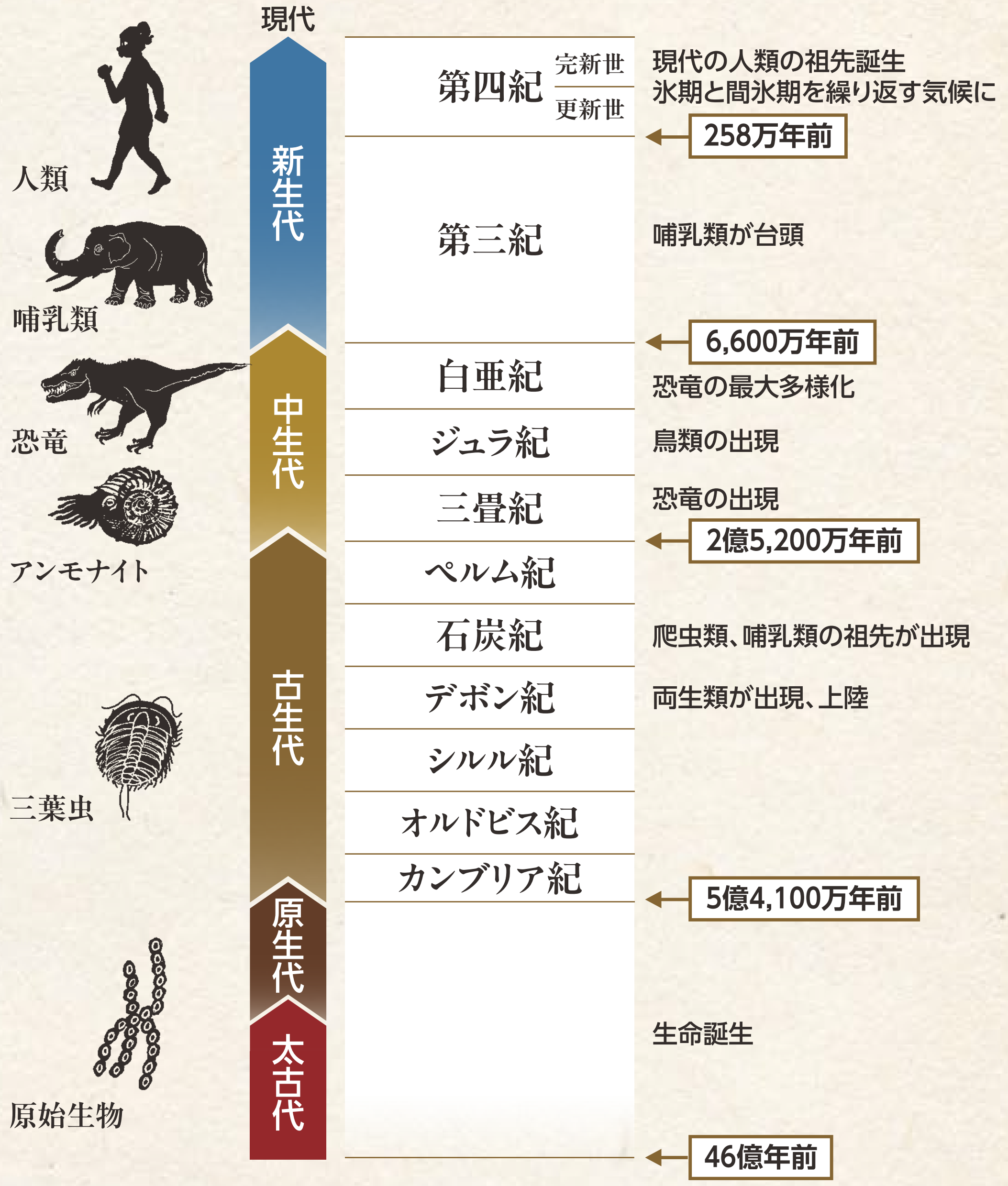
地球の歴史と古の生きもの

　私たちが生きている現代は、地質年代では「新生代のうちの第四紀のうちの完新世」にあたります。地球が誕生したのが今から約46億年前、古生代には動植物が陸上に進出し、中生代では恐竜が繁栄。新生代に入ると哺乳類が台頭してきます。そして、新生代のうちの第四紀に入ると、氷期と間氷期（氷期と氷期の間の比較的温暖な時期）を繰り返す気候に。第四紀の更新世（258万8,000年前〜1万1,700年前）では、関東平野に海が広がっていた時期もありました。

　日本列島に現生人類が登場するのは約3万8,000年前ですが、ナウマンゾウが日本列島にいたのはおよそ34万年前から2万6,000年前まで。人類よりも日本列島に住んでいた期間が長かった生きものです。このことから日本列島における人類とナウマンゾウの共存期間は約1万年間ということになりますが、最新の研究では4,000年〜6,000年の間ではないかとも言われています。区でナウマンゾウの化石が発見されることなどからも、区を取りまく気候の変化や生きものの繁栄の歴史をひもとくことができると分かります。

千代田区公式YouTubeチャンネルでは
地層について学べる動画を8月上旬公開予定

地質年代と地球の歴史



特別展　発見された東京の化石

ナウマンゾウの化石
浜町標本・原宿標本の
実物を展示！

五番町貝層の貝化石初公開！

東京都心部から発見された化石や区内で採取した地層を展示します。

時 8月29日（土）〜10月18日（日）月曜〜木曜、土曜10時〜19時。金曜10時〜20時。日曜、祝日10時〜17時、休館日9月21日（月・祝）

内 千代田区をはじめとした都心部では開発工事に伴い、多くの化石が発見されている。あまり知られていないこれらの化石がどこから、どんな経緯で見つかったのかを紹介。また千代田区の地形がどのように形成されたのか、ふだんは見ることのできない地下深くの地層からひもとく。

場 日比谷図書文化館1階特別展示室（日比谷公園1-4）　費 一般500円、高大生300円　問 日比谷図書文化館☎03-3502-3340

関連講座①
「東京のナウマンゾウ−都市の開発でめざめたゾウたち−」

時 9月19日（土）14時〜15時30分

内 日本の代表的な化石の一つであるナウマンゾウについて、どんなゾウなのか、東京でどのようなナウマンゾウが発見されているのかなど、最新の研究成果も踏まえて紹介

師 高橋啓一氏（滋賀県立琵琶湖博物館名誉館長）

関連講座②
「千代田区の地形・地質の成り立ちを探る」

時 9月27日（日）14時〜15時30分

内 過去の気候変動による海面の昇降と、地殻変動を反映して形成された区の地形・地質の成り立ちを紹介

師 鈴木毅彦氏（東京都立大学都市環境学部教授）

関連講座③
「東京の地下に眠る貝化石」

時 10月4日（日）14時〜15時30分

内 貝化石を手がかりに東京の地層の形成と産地の特質、過去の気候変動の実態を紹介

師 佐々木猛智氏（東京大学総合研究博物館准教授）

いずれも

場 日比谷図書文化館（日比谷公園1-4）

定 200名（申込順）　費 1,000円（区民500円）

申 ①8月1日（土）〜②8月9日（日）〜③8月16日（日）〜イベント予約サイト「Peatix」、電話または直接問合せ先へ。電話、来館の場合は講座名、名前（ふりがな）、電話番号も連絡　問 日比谷図書文化館☎03-3502-3340

担当学芸員によるギャラリートーク

時 9月4日（金）・25日（金）、10月16日（金）いずれも18時〜、各回30分程度（当日直接会場へ）

場 日比谷図書文化館1階特別展示室（日比谷公園1-4）

内 展示を担当した学芸員による解説や裏話など　費 不要（別途入場料は必要）

問 日比谷図書文化館文化財事務室☎03-3502-3348

千代田ミュージアムネットワーク連携講座　化石掘り体験

時 10月10日（土）13時30分〜16時（予備日10月17日（土））

場 多摩川河川敷（小田急線和泉多摩川駅集合）

対 小学5年生〜中学3年生とその保護者

定 10組20名（応募者多数の場合抽選／区内在住・在学者優先）

内 露頭（地層や岩石がむき出しになっている場所）で、貝や魚の化石を探す

師 宮田真也氏（城西大学水田記念博物館大石化石ギャラリー学芸員）

費 1組500円　申 8月22日（土）〜9月7日（月）に申込フォームで

問 申し込み＝日比谷図書文化館☎03-3502-3340、内容＝日比谷図書文化館文化財事務室☎03-3502-3348

CHIYODA MUSEUM NETWORK

福井県とのコラボ企画
スペシャル講演「福井県のジオ（Geo）年縞×恐竜　研究の最前線2026」

時 10月12日（月・祝）14時〜16時　場 日比谷図書文化館（日比谷公園1-4）　定 200名（申込順）

内 地層や化石に縁の深い福井県の博物館にちなんだ講演。第1部は「7万枚の地層を数える—日本の小さな湖が「世界標準ものさし」になるまで—」、第2部は「恐竜研究はここまで進んだ—日本の恐竜と最新研究が描き出す恐竜—」の二本立て

師 中川毅氏（立命館大学古気候学研究センター長・教授）、柴田正輝氏（福井県立大学恐竜学部教授）　費 1,000円（区民500円）

申 8月24日（月）〜イベント予約サイト「Peatix」、電話または直接問合せ先へ。電話、来館の場合は講座名、名前（ふりがな）、電話番号も連絡　問 日比谷図書文化館☎03-3502-3340